



慶應義塾大学ビジネス・スクール

コンベンションビジネスに関するノート

I. 見本市の開催実態と今後の方向

見本市は、総合的な見本市から日常的な即売会や商品ショー、さらに博覧会と、多様な形態で開催されている。その実態についてはいくつかの統計資料から明らかになる部分があるものの、資料によってそのとらえ方も異なるために、全貌をとらえることはきわめて難しいのが実情である。統計や資料は限られたものであるが、今回行ったアンケート等の調査結果をふまえて、見本市の開催実態と今後の方向について述べることにしたい。

1. 見本市の開催実態

(1) 海外の開催動向

世界で毎年、多種多様な見本市が開催されており、その件数は7,000を超えている。伝統を有する見本市に加え、時代のニーズに応じた新しい見本市・展示会が次々と企画されており、その数は年々増加する傾向にある。

主要国で開催される主な見本市・展示会についてみると、大陸別ではヨーロッパで全体の半数が開催されており、北米で1/4、アジアで1割と続いている。国別では、アメリカが第一位で2割を占め、西ドイツ、イギリス、フランスと続いている。(表1) アメリカで発行している Exhibits Schedule をもとに、アメリカの開催件数をみると1982年の5,342件から1985年の5,818件へ9%近い伸び率で増加している。

このノートは通商産業省の委託を受けて社団法人日本プロジェクト産業協議会が実施した「新産業社会基盤施設整備基本調査(国際見本市場施設関係)」の調査結果(1987年3月)を基にして作成されている。

慶應義塾大学ビジネス・スクールの藤枝省人教授は教育に使用するため、通商産業省、社団法人日本プロジェクト産業協議会の好意ある許可を得て、同調査結果の一部をノートとして抜粋、編集した。

両機関の御好意に対し、記して深甚なる感謝の意を表するものである。

(編集責任者 藤枝省人)